

国語科学習指導案

平成25年10月29日(火) 5校時
指導者 仁志 健太

1 年部

めざす児童像	相手の話を聞き、自分の考えを進んで表現することができる子ども
求める授業イメージ	人の話を聞き、自分の考えをもてる授業
☆授業の視点 (思考することを楽しむ姿)	教科書や図書資料の中から、必要なことを見付け、交流することにより、目的に合う読みができる。

- 1 単元名 のりものことをしらべよう 「B 書くこと」「C 読むこと」
「いろいろなふね」

2 単元設定の理由

- 本学級の児童は、これまでの学習を通して、発表の仕方や聞き方など、基本的な学習規律を少しずつ身に付けてきている。1学期の説明文「どうやってみをまもるのかな」では、それぞれの動物の身の守り方について、説明文の基本的な形を学び、問いや答えの文章を探したり、ワークシートにまとめたりすることを通して、文章の構成に注目しながら読み取ることができるようになってきた。また、動作化をしたり、緻密に描かれた挿絵と文をつないで読み進めたりすることで、書かれていることを正しく読み取る力もつけてきた。そして、本文にない動物について、問いと答えの文型を使ってやりとりする体験をした。しかし、学習したことをもとに「もっと動物について調べてみたい」という目的を意識した読書活動には至っていない。

本単元では、「いろいろなふね」の学習に併せて、好きな乗り物についての本を読んで、工夫について書かれている部分を書き抜くという学習活動により、目的を意識した読書や、文章の内容や構成に着目して、読んでいく力をつけていくことが期待される。

- 本単元では、「B 書くこと」と「C 読むこと」の領域から、書かれている内容を事柄ごとに正しく読み取り、他の乗り物についても調べて発表することをねらいとしている。ここで扱う教材文は、特徴的な機能をもった4種類の船を例として取り上げ、船の役目や設備、利用の仕方などを紹介している。それぞれの例示が同じ文章構成、文型で説明されており、叙述に即して内容を正確に捉えるのに適している。また、児童が身近に感じられる船から、あまりなじみのない船へと展開し、それぞれの写真を手がかりに興味・関心をもって読み進めることができる文章構成となっている。ここでは、単元の最後に好きな乗り物について調べ、乗り物カードにまとめることを学習の見通しとしてもたせる。そして、教材文の文型を活用して、必要な情報を探し出したり、説明する文を書いたりする活動を、単元を通して行う。それによって、より確かな読む力を身に付け、目的を意識した読書活動ができると考える。

- 指導にあたっては、以下のことに留意する。

◎課題設定・教材提示の工夫

- ・単元の始めに、学習の終盤には好きな乗り物カードを書いて乗り物図鑑を作ること予告し、実物を提示することで児童の学習意欲を高めるとともに、学習の見通しをもたせる。
- ・乗り物についての様々な本を用意し、いろいろな資料に触れやすくさせる。
- ・教材文と併せて行う読書では、その時間に学習する船に関する図書資料に限定し、提示する。

◎「読むこと」の力を育てる学習活動

- ・児童が教科書にない乗り物について説明の文章を書く際にも、この文型を生かすことができるように、「～ための」「～あります」などの言葉に着目させ、役目と工夫を読み取らせる。
- ・本文を読み取った後でまとめる活動を毎時間行い、乗り物カードの作り方に慣れさせる。
- ・それぞれの船の読み取りの授業の最後に、同じ船について、図書資料の中から、教科書にない工夫を見つける活動を取り入れ、目的を意識した読書活動の経験をさせる。
- ・教科書以外の本から読み取る経験から、必要な情報を探し出す力を養う。

◎伝え合い、思考を深める交流の場

- ・ペアで「おたずねごっこ」をしたり、グループで教科書にない工夫を探したりすることで、自分だけでは見付けられなかった工夫に気付かせる。
- ・作った乗り物図鑑をお互いに見合い、友だちの図鑑のよいところを見つけ、伝える活動を行うことで、いろいろなまとめ方があることに気付かせる。

3 単元の目標

- (1) 乗り物に興味をもって説明文を読んだり、好きな乗り物について調べたりしようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 好きな乗り物について調べ、乗り物の特徴が伝わるように、役目と工夫を整理して書くことができる。
(書くこと)
- (3) 順序に気を付けて読み、書かれている内容を正しく読み取ることができる。
(読むこと)
- (4) 主語と述語の照応関係に注意することができる。
(言語についての知識・理解・技能)

4 単元の評価規準

【言語活動】 ウ 好きな乗り物について調べ、カードに書いて伝えること			
国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな船の仕事やつくりに関心をもち、進んで「いろいろなふね」を読んで知ろうとしている。 ・いろいろな乗り物に関心をもち、進んで本を読んで調べ、分かったことをみんなに知らせようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り物カードに書いて伝えるために乗り物について調べている。(ア) ・乗り物の特徴が伝わるように、役目と工夫を整理して書いている。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・順序に気を付けて読み、書かれている内容を正しく読み取ることができる。(イ) ・それぞれの乗り物に、どんな役目があって、どんな工夫をしているかを表す大事な言葉を見付けながら読むことができる。(エ) ・好きな乗り物について知るために乗り物について説明した本を選んで読んでいる。(カ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の照応関係に注意している。(イ(カ))

5 指導と評価の計画 (全13時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	指導過程における評価規準と評価方法 【観点】 評価方法
第一次	1	①船に乗ったり見たたりした経験について話し合い、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が作った乗り物図鑑を提示し、学習への見通しをもたせる。 ○乗り物カードには、その乗り物の役目と工夫が書かれていることに気付かせる。 ○「～は、」という言葉に着目させ、主語をつかませる。 	[関]いろいろな船について考え、興味をもって学習に取り組もうとしている。 [発言] [言イ(カ)]形式段落を正しく書き、主語をとらえることができる。 [発言・ノート] [読イ]説明文をはじめ、なか、おわりに分けてとらえることができる。 [発言・ノート]
	2	②文章構成をつかむ。 ③「いろいろなふね」を読んで思ったことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○4つの船について書いてあるところと、それ以外のところがあることに気付かせ、文章構成をつかませる。 ○どの船について一番興味をもったか、もっと知りたいことは何かなどについて考えさせる。 	[関]4種類の船について、一番興味をもったものやもっと知りたいものについて考えることができる。 [発言・ノート]
第二次	3	④4種類の船について読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ○「～ための」などの言葉に着目させ、役目や工夫を表す言葉であることをつかませる。 	[読イ]役目と工夫に線を引くことができる。 [読エ]文章の中の大事な言葉を見つけることができる。 [発言]
	4	・きやくせん	<ul style="list-style-type: none"> ○「きやくしつ」や「しよくどう」など、言葉の意味を挿絵などを使って確認しながら読み進める。 	[教科書への書き込み]
	5	・フェリーボート	<ul style="list-style-type: none"> ○その船について説明してある図書資料から、新しい工夫や特徴をグループで見付けさせる。 	[書イ][読イ][読エ]教科書や図書資料から、役目と工夫をまとめカードにまとめることができる。 [乗り物カード]
	6	・ぎよせん		
7	・しょうぼうてい(本時)			
第三次	8	⑤好きな乗り物の本を読んで、役目と工夫を見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な種類の本を用意し、児童が自ら本を選べるような環境をつくる。 ○相手意識をもたせ、丁寧に乗り物カード作りができるようにさせる。 	[関]乗り物に興味をもち進んで本を選んで読もうとしている。 [行動観察]
	10	⑥見付けたものをもとに乗り物カードを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで作ってきた乗り物カードを参考に、自分の好きな乗り物の役目や工夫に着目してまとめていけるようにする。 	[読カ][書ア]好きな乗り物についての本を選び、調べている。 [行動観察]
	11	⑦乗り物図鑑をみんなで読み、交流を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちのよいところを見付けることで、主体的に聞くことができるようにさせる。 	[書イ]好きな乗り物の役目と工夫が伝わるようにカードにまとめている。 [乗り物カード]
12				
13				

6 本時案

- (1) ねらい 教科書や図書資料から、消防艇の役目や工夫を読み取ることができる。
- (2) 準備物 消防艇の写真(掲示用), 乗り物カード, 消防艇についての資料(掲示用, 児童用)
- (3) 展開

過程	学習活動・内容	教師の働きかけ・評価
つかむ	1 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確かめる。 ・本時のめあて	T 今までに学習した3つの船のように、消防艇の役目や工夫を見付けよう。 ・前時までの乗り物カードを提示することで、本時の活動への見通しをもたせる。
/	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> しょうぼうていのやくめやくふうをみつけよう </div> 2 学習範囲を音読し、教科書から消防艇の役目と工夫を見付けてまとめる。 ・役目…船の火事を消す ・工夫…ポンプやホースをつんでいる ○役目は何ですか。 船の火事を消すことです。 ○工夫は何ですか。 ポンプやホースをつんでいます。	T 消防艇の役目と工夫を見付けよう。 ・ や く と書いたサイドラインをひかせることで、役目と工夫を分かりやすくさせる。 ・「おたずねごっこ」をペアで行うことで役目と工夫を読み取ることができたかどうか確かめさせる。 ・ポンプやホースの役割、薬を使う理由などの補足説明をし、消防艇のイメージをふくらませる。 T 消防艇の役目と工夫を乗り物カードにまとめよう。 ・机間指導をし、書くことが難しい児童には声かけをする。 ※消防艇の役目と工夫を見付け、まとめることができたか。 [乗り物カード]
見つける・まとめる	3 消防艇についての図書資料から、新しい工夫を見付けてまとめる。 ・図書資料から読み取れる工夫 ○水をはじく扇風機があります。 ○救命用ボートがあります。 ○たくさんの放水銃があります。	T 教科書にない消防艇の工夫を見付け、まとめよう。 ☆教科書にない工夫を見付けさせるために、グループで同じ図書資料を見合い、意見を出したり認めたりする学び合いの場を設ける。 ・見付けた工夫を全体に発表することで、共感してもらおう喜びを味わわせる。また、発表を聞くことで、新たな工夫に気付かせたりする。 ※教科書に載っていない工夫を図書資料から見付け、まとめることができたか。 [行動観察・乗り物カード]
/	4 学習の振り返りをする。 ○たくさんの水を出すことができます。 ○水を遠くまでとばすことができます。 ○水を出すところがたくさんあります。	T 「ふねじまん」をしよう。 ・読み取った役目と工夫をもとに「ふねじまん」をすることで、本時に学習したことを振り返らせる。
振り返る		

国語科学習指導案

平成25年10月29日(火) 5校時
指導者 木村 満 彰

4 年 部

めざす児童像	・相手の発言をじっくりと聞き、内容を理解することができる子 ・自分の考えをもち、理由付けて分かりやすく伝えることができる子
求める授業イメージ	・自分の考えをもち積極的に意見を交流し合うことにより、共に学ぶ価値を感じることができる授業
☆授業の視点 (思考することを楽しむ姿)	本文中から必要な部分を抜き出して自分の考えを加えながら紹介文を書いたり、それを伝え合ったりすることを通して、友だちといっしょに考える楽しさを感じながら自分の考えを広げることができているか。

1 単元名 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう 「C 読むこと」
「世界一美しいぼくの村」

2 単元設定の理由

○ 本学級の児童は、4年生になって「こわれた千の楽器」や「走れ」の教材を通して登場人物の心情を考える学習をしてきた。ここでは、自分の経験に照らしたり、想像力を働かせたりしながら自分なりの考えをもち、物語の世界を楽しむことができた。事前のアンケートでは30名のうち20名が「物語文の学習が好き」と答えている。これらの状況から鑑み、児童の「読む」活動への姿勢は意欲的であり、感受性も豊かであると考えている。

しかし、語彙や表現力が十分でないため、自分の考えを書いたり話したりして他者に伝えることに関しては、苦手意識をもつ児童がいる。アンケートでは、自分の意見を伝えることが苦手と答えた児童が「話して伝える」で30名中15名、「書いて伝える」になると20名となっている。

このような現状の児童であるが、叙述に即して自分の感想や考えを加えながら物語の紹介文を書き、まだ読んだことのない人に紹介するという活動により、意欲的に書いたり話したりする活動に取り組むことができると考える。また、その活動を通して、自分の考えを他者に書いたり話したりして伝えることに少しでも自信をつけていくことができると考える。

○ 本単元では、テーマが関連する図書を読み広げ、自分の読んだ本を紹介するという活動を通して、必要な情報を取り出し、自分の考えを含めながら条件に沿った文章を書く力を培っていく。自分が知っていることを、まだそれを知らない誰かに伝えるという場面設定により、意欲的に取り組める活動である。また、そのことを通して、読んだ作品の大切な部分を取り出し、間接的に主題に迫ることもできていくはずである。

学習の手順としては、まず学級全体で教材文を読み、自分の感想を含めて他者に作品を紹介する文を書く。そして、実際に書いた紹介文を読み合うことで、物語の中から取り上げた部分や物語からの感想のもち方や表現方法の違いに気付き、感受性や表現力を高めていく。

続いての関連読書では、「家族やふるさとを思う心をえがいた本」というテーマに沿って自分が選んだ本を読んでいき、一番紹介したい作品を選び出してその内容を友だちに紹介する。

そこでも、紹介文を書くことを通して、作品の主題について考えたり、相手が読みたくなる文章を書いたりすることで、読み取る力や表現力を磨くことができる。

○ 指導に当たっては以下のことに留意する。

◎ 伝えることへの意欲の喚起

・作品の紹介文を書くという、単元を貫く言語活動を初めに知らせ、伝えたいポイントを考えさせることにより、紹介文を書くための意欲を高める。

◎ 話合いの場の工夫

・少人数での交流の中で考えさせる中で、どこがよかったか、どこを直せばよいかという視点をもたせて相互評価させたり、互いの共通点や相違点を見付けさせたりして、有効な伝え方や読み手による感じ方の違いに気付かせるようにする。

◎ 相手意識の醸成

・読み手による感じ方の違いを想定して相手意識をもたせることにより、どうすれば相手に興味をもってもらえるかを考えさせるようにさせる。

・どんな部分を、どんな順番で、どんな言葉で伝えているかを意識して他者の発表を聞かせることで、読む力や書く力、伝える力を高めていく。

3 単元の目標

- (1) 物語に興味をもって読み、読み広げや読書発表会に意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 紹介文を書くという目的に沿って内容の中心を捉えて読み、自分の考えを明確にすることができる。(読むこと)
- (3) 効果的な文章を本文から抜き出したり、文章の構成を考えたりして、他者が読みたくなるような紹介文を書くことができる。(言語についての知識・理解・技能)

4 単元の評価規準

【言語活動】 エ 家族やふるさとを思う心を描いた本を友だちに紹介すること		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・家族やふるさとを思う心を描いた本を読み、興味をもってほかの本も読もうとしている。	・場面の移り変わりに注意して読み、人物の気持ちの変化を捉えている。(ウ) ・本を読んで、心に残ったことを伝え合い、それぞれの感じ方の違いに気付いている。(オ)	・物語文の中から、考えたことや思ったことがよく伝わる部分を効果的に選んで、紹介に取り入れている。(イ(ア))

5 指導と評価の計画

次	時	活動内容	指導上の留意点	指導過程における評価規準と評価方法 [観点] [評価方法]
一	1	①物語を読み、学習のねらいを確かめ、初発の感想を書く。	○紹介文を書くという言語活動をしっかり意識させる。	学習の見通しをもち、教材文の内容に関心をもっている。[関] 初発の感想から評価する。
	2	②叙述をもとにヤモの気持ちの変化を読み取る。	○叙述の中から、紹介文の材料を場面ごとに見付けておく。	教材文の内容について、叙述に基づいて読み取れている。[読ウ] 発言やワークシートの記述内容から評価する。
	3			
	4	③最後の一文について考えたことを話し合う。	○物語の内容や登場人物の言葉に注目させ、作品の中に含まれたメッセージについて考えさせる。	最後の一文に込められたメッセージを読み取ることができている。[読ウ] 発言やワークシートの記述内容から評価する。
	5	④教材文の紹介文を書くために必要な項目を確かめ、実際に紹介文を書く。	○文型や項立てを示したり、挿絵に注目させたりして児童が紹介文を書きやすいように支援する。	物語文の中から、効果的な部分を選んで、紹介文が書けている。(イ(ア)) 紹介文から評価する。
	6	⑤効果的な紹介の方法について考え、ワークシートに書く。(本時6/11)	◎友だちのよいところを取り入れることができるようにさせる。	友だちの表現のよい点を取り入れることができている。[読オ] 発言やワークシートの記述内容から評価する。
三	7	⑥家族やふるさとを思う心を描いた本を探して読む。	○学校図書館に協力を仰ぎ、あらかじめ関連図書を選び出しておく。	目的に応じて、本を選んで読める。[読カ] ワークシートへの記述から評価する。
	8	⑦友だちに紹介したい本を選び、紹介したい点をまとめる。	○ワークシートを用意し、自分の思いが整理できるようにさせる。	文章を読んで考えたことをまとめることができる。[読エ] 発言やワークシートへの記述から評価する。
四	9	⑧家族やふるさとを思う心を描いた本の紹介文を書く。	○ワークシートに記述させることで、紹介のポイントをつかませる。	読んだ文章の紹介文を書くことができる。[読エ] 紹介文から評価する。
	10	⑨読んだ本を紹介したり、感想を伝え合ったりする。	○感想の伝え合いから、読書活動の楽しさを感じさせるようにする。	自分の考えを発表し合ったり、感想を伝え合ったりする。[読オ] 発言やワークシートへの記述から評価する。
	11			

6 本時案

- (1) ねらい 「世界一美しいぼくの村」の紹介文を読み合うことで効果的な紹介の方法について考え、自分の紹介文に取り入れるポイントをつかむことができる。
- (2) 準備物 めあてを書いた掲示物、紹介文を書いた短冊画用紙、ワークシート
- (3) 展開

過程	学習活動・内容 (○予想される子どもの反応)	教師の働きかけ・評価
つかむ	1 本時のめあてを確かめる。	
調べる	2 紹介文を読み合う。 ・前時に画用紙に書いた紹介文のグループ内での発表	T グループ内で紹介文を読み合ひましょう。 ・司会者を決め、順番に発表させる。
調べる	3 紹介文の似ていたところや、違っていたところをもとに感じたことをワークシートに書く。 ○友だちと同じところを取り上げていたけど、そこから感じたことは違っているね。 ○同じ文章を読んでも、目を付けるところは人によって違うんだな。	T 友だちの紹介文と比べて、感じたことをワークシートに書いてみましょう。 ・目の付けどころが同じで、その箇所から感じる意見を発表させる。
話し合う	4 紹介文を全体場で紹介し合う。 ・黒板上での類型化 ・取り上げるテーマの比較 ・表現方法の工夫	T 紹介文を仲間分けして、気付いたことを話し合ってみましょう。 ・前時に短冊状の画用紙に書いた紹介文を黒板に貼っていき、似た部分があるものはまとめていく。 ・効果的な方法について具体例を示すことで取り入れたい表現を見付けさせる。 ☆友だちの目の付けどころや表現方法から取り入れたい部分を見付けさせる。
まとめる	5 学習のまとめをする。 ・友だちの表現から学んだこと（新しい発見）をワークシートに記入	T よりよい紹介文にするために、何を取り入れますか。 ・ワークシートに記入したことを、数人の児童に発表させ、学習をまとめる。 ※ワークシートに自分の考えが書けているか。〔ワークシートへの記述〕

国語科学習指導案

平成25年10月29日(火) 5校時

指導者 熊田 恵美

5年部

めざす児童像	目的や意図に応じて、表現の効果を考え、自分の思いを適切に表現する子ども
求める授業イメージ	認め合い、学び合いのある授業
☆授業の視点 (思考することを楽しむ姿)	修正点について助言し合うことで、書くことへの意欲を高め自分の表現にいかすことができる。

1 単元名 活動したことを伝える文章を書こう 「B 書くこと」 「伝えよう、委員会活動」

2 単元設定の理由

- 本学級の児童は、学習に意欲的に取り組んでおり、習得した知識・技能を活用しながら思考を重ねていこうとする態度が見られる。国語科の学習においては、1学期の「世界でいちばんやかましい音」の学習等での叙述にそって読み取る活動を通して、交流しながら学び合い、互いの読みを深めるよさに気付いている。しかし、日頃の授業から、課題内容を分析、比較、統合するといった読み方や文章の構成を工夫するといった書き方に課題が見られる。自分の学習を振り返り、課題意識をもって学習することにより、目的に応じ、内容や要旨を捉えながら読む力や文章に書く力を身に付けることが期待される。
- 本単元は、第5学年及び第6学年「B 書くこと」の目標である「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考え文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる」を具体化したものである。本単元では、自分の所属している委員会活動について4年生に紹介するという活動を通して、目的に合わせて書くことを選び、構成を考えて書く力を付けることをねらいとしている。リーフレットにまとめることで、文章を工夫しながら書く力を身に付けるだけでなく、必要に応じて図表やグラフを用いたり、割り付けを工夫したりする力も付けることができると考える。また、完成したリーフレットを用いて交流し、助言をする活動を取り入れることで、相手の意図を把握しながら読む力も付けていきたい。
- 指導にあたっては次の点に留意する。
 - ◎「書くこと」への意欲を高める工夫
 - ・4年生から「委員会活動についてどんなことを知りたいか」というアンケートをとることで、目的意識をもって分かりやすく伝える必要感をもたせる。
 - ・2つの文章を比較する場を設定し、推敲の視点を明確化することで、自分の文章を推敲しようとする意欲につなげる。
 - ・これまで学習してきた文章の構成や表現の仕方について教室に提示しておくことで、文章を書く時の参考となるようにする。
 - ◎子どもが相互にかかわり合う場の設定
 - ・書いた文章を推敲し、友だちと交流する場を設定することで、より分かりやすい表現に修正したり、友だちの書いた文章のよさを感じ取り、自分の表現にいかしたりすることができるようにする。
 - ・4年生との交流の場を設定し、4年生に感想を書いてもらうことで、文章を書くよさや意欲が高まるようにする。
 - ◎振り返りの場の設定
 - ・学習後に振り返りの場を設定することで、どんな力が付いたのか自覚できるようにし、身に付けた言語の知識や技能を活用できるようにする。

3 単元の目標

- (1) 委員会の活動報告や自分の考えを、読み手の関心を喚起するように具体的な資料を引用したり、構成の効果を考えたりしながら工夫してまとめようとするができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 目的に合わせて必要な事柄を選び、構成や表現を考えて相手に伝える文章を工夫して書くことができる。(書く能力)
- (3) 文章にはいろいろな構成があることについて理解し、目的に応じて効果的な構成を選ぶことができる。(言語についての知識・理解・技能)

4 単元の評価規準

【言語活動】		ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと
国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・活動報告や自分の考えを、読み手の関心を喚起するように具体的な資料を引用したり、構成の効果を考えたりしながら工夫してまとめようとしている。	・活動内容や自分の考えなどを明確に表現するため、文章の構成の効果を考え活動報告文を書いている。(イ) ・推敲の視点にそって文章を見直し、表現の効果や構成について確かめたり、工夫したりしている。(オ) ・書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合っている。(カ)	・文章にはいろいろな構成があることについて理解し、それらを効果的に選んで、用いている。(イ(キ))

5 指導と評価の計画

次	時間	学習活動	指導上の留意点	指導過程における評価規準と評価方法 〔観点〕 〔評価方法〕
一	1	①教材のねらいを確かめ、学習の見通しをもつ。	○事前に4年生からアンケートをとり、委員会活動について知りたいことを伝えることで、分かりやすい活動報告文を書くという目的をもたせ、学習への意欲を喚起する。	〔関〕 委員会の活動報告を読み手の興味をひくように工夫してまとめるという活動に興味をもって取り組もうとしている。 発表の様子をもとに加点的に評価する。
	2	②教科書のリーフレット例から形式や内容などのリーフレットの特徴をつかむ。	○リーフレットの特徴を挙げる活動を通して、リーフレットの表現の工夫や効果について気付かせる。	〔書イ〕 分かりやすく伝えるためにはどのような構成・内容・方法があるか理解し、具体的視点としてノートにまとめている。 ノートの記述内容から評価する。
二	3 4	③委員会の活動について、報告したい事柄をメモに書き出す。	○事実(活動内容)と意見(感想や考え)の2つの視点を明確にし、付箋紙に書き出すことで、内容、資料を整理できるようにする。	〔書ア〕 読み手を意識した上で委員会の活動について書きたい事柄を整理し、構成メモを書いている。 ワークシート・付箋紙の記述内容から評価する。
	5	④書く事柄を決め、リーフレットのレイアウトを考える。	○選択した事柄・資料を実際に割り付けさせることで、どのレイアウトが分かりやすいかを考えさせる。	〔書イ〕 読み手を意識して文章や資料の位置関係を決め、全体の構成を考えている。 レイアウトの配置や記述内容から評価する。
三	6 7 8	⑤読み手に分かりやすくなるように工夫して、活動報告をリーフレットにまとめる。	○分かりやすく伝えるための視点を明示することで、リーフレットにまとめていく際の手がかりとさせる。	〔書イ〕 読み手の興味をひくように文章を工夫して書いている。 〔書エ〕 活動報告を効果的に伝えるために写真や図表などを用いて書いている。 下書きのリーフレットの内容から評価する。
	9	⑥推敲の視点を知り、視点にそって推敲し、より分かりやすい文章にする。 (9 / 11)	○2つの文章を比較することで、推敲の視点を明確にする。 ○一人学びとグループの2段階で推敲することで、推敲の視点を広げ、修正点に気付くことができるようにする。	〔書オ〕 推敲の視点を知り、相手に活動報告の内容が分かりやすく伝わるように書き直している。 〔書カ〕 書いたものを読み合い、構成や表現の効果についてよい点と修正点を付箋紙に書き、助言し合っている。 ワークシートの記述内容から評価する。
	10	⑦リーフレット全体を読み合い、内容や表現を見直す。	○前時までの学習を振り返り、「推敲」と「助言」の視点が一致するようにする。	〔書カ〕 内容について助言し合い、友だちからの助言をもとにリーフレットを完成している。 〔言イ(キ)〕 相手の理解が明確になるような文章の構成を選び、それを用いて活動報告文を書いている。 伝え合いの様子から加点的に評価する。 完成したリーフレットの内容から評価する。
四	11	⑧リーフレットを読んだ4年生の感想を読むとともに学習全体を振り返る。	○分かりやすい点を中心に4年生に感想を書いてもらうことで、文章を書くことに対して自信をもつことができるようにする。	〔関〕 自分の考えを明確に伝えるためにこれからも分かりやすく工夫して書いていこうとしている。 振り返りの記述内容から評価する。

6 本時案

- (1) ねらい 2つの文章を比較することで推敲の視点を知り、視点にそって文章を推敲することができる。
- (2) 準備物 拡大提示装置, マス目入りワークシート, 振り返りカード, 付箋紙, 比較用掲示資料, 「言葉の力」カード
- (3) 展開

過程	学習活動・内容 (○予想される子どもの反応)	教師の働きかけ・評価
つかむ	1 本時の学習課題をつかむ。	T もっと分かりやすいリーフレットにするためにはどうしたらよいでしょうか。
	報告文を推敲しよう	
話し合う	2 同じ題材の二つの文章を比べ、推敲の視点について話し合う。 ・誤字, 脱字, 文末表現の統一 ・具体的な数字の記述 ・自分の考えを明確に表現する構成 活動内容(概説)→詳細な活動内容 →まとめ ○活動報告文の構成が分かったから自分の文章も推敲したいな。	T どちらの文章をリーフレットに使いたいですか。その理由も説明してください。 ・教科書の例文を使い, 推敲前と推敲後の文章として比較し, リーフレットに使いたい理由を挙げさせることで, 推敲の視点を明確にする。
活用する	3 文章を推敲の視点にそって書き直す。 ・文章の構成 ・表現の効果 ○活動内容(概説)を分かりやすく短く書くにはどうしたらいいかな。	T 推敲のポイントをもとに自分の文章を推敲しましょう。 ・視点にそって自分の文章を推敲する場を設定することで, 主体的に推敲し, 自分の表現の曖昧さに気付くことができるようにする。 ※文章を視点にそって, 推敲することができる。 [ワークシート]
	4 推敲した文章について, グループで助言し合う。 ・活動報告文の基本の構成 ・修正した方がよいところ ○まとめの部分がないので, そこを1文か2文で書くと分かりやすくなると思うよ。	T グループでお互いの文章を推敲しましょう。 ・グループで助言する活動を取り入れることで, 推敲の視点を広げることができるようにする。 ☆修正点について付箋紙を用いて, 助言し合うことで, 書くことへの意欲を高めたり, 自分の文章にいかしたりできるようにする。 ※友だちが書いた文章について表現の仕方に着目して助言し合うことができる。 [行動観察・付箋]
伝え合う	5 全体場で発表する。 ・分かりやすい表現, 構成 ○構成を意識して報告文を書く活動内容がよく伝わるようになりました。	T 推敲した文章について, 紹介してください。 ・推敲の視点にそってよりよい表現に書き直すことができた文章を紹介することで, 推敲のよさが全体に広がるようにする。
振り返る	6 本時の振り返りをする。 ・推敲のよさ ・活動報告文の書き方 ○今日の学習をいかして, リーフレット全体を見直そう。	T 今日の振り返りを書きましょう。 ・本時の学習を振り返ることで, 分かりやすい文章を書くためには, 推敲が必要であることに気付かせ, 自分のリーフレット全体を推敲しようとする意欲につなげる。

国語科学習指導案

平成25年10月29日(火) 5校時
指導者 原田 真由美

6年部

めざす児童像	学んだことを、生きて働く力として活用することのできる子
求める授業イメージ	伝え合い、学び合い、高まり合うことのできる授業
☆授業の視点 (思考することを楽しむ姿)	文章を読んで感じたことや考えたことを友だちと交流することで、自分の考えを明確にもつことができる。

1 単元名 「持続可能な社会」への取り組みについて考えよう 「C 読むこと」
「未来に生かす自然のエネルギー」(牛山 泉)

2 単元設定の理由

- 本学級の児童は、学習に対して真剣に取り組む姿勢が見られ、解決に向けてペアやグループで話し合い、よりよい方法を見出す活動に意欲的に取り組んでいる。また、その活動の中で自分の感想や考えをもつこともできるが、自信がもてなかったり、依存的になったりして、他者に伝えることに消極的な児童も少なくない。国語科の学習においては、1学期に「自分の考えを明確にしながら読もう」の学習で、教材文「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読むことを通して、中心となる語句や文に着目しながら文章の構成や筆者の主張を的確に捉えることができるようになってきた。その際も、それに対する自分の考えをもちノートにまとめて書くことはできたが、広く全体に伝えようとする児童は少なく、力が十分に発揮されていない。
- 本単元では、資料の示し方や具体例の挙げ方に注意して筆者の意見を読み取ることを中心的なねらいとしている。環境問題が叫ばれる中、「こまめに電気を消す」など環境保全のために自分にできることを見付けたり、エネルギー問題が地球温暖化等の環境問題につながっていることを感じたりしている児童は多い。本教材はエネルギー問題の現状や課題について、写真やグラフなどの資料を効果的に活用して分かりやすく説明している文章であり、その読解を通して現代のエネルギー問題の実態を理解し、「持続可能な社会」の実現のために未来を担う者として何をすべきなのかを必然的に考えることができるであろう。文章の一語一語を大切に捉えながら筆者の主張を読み取ることで、自分なりの感想や考えをもち、それを伝え合うことを通して一人ひとりの考えをより豊かにするのにふさわしい教材であると考え。
- そこで、指導にあたっては以下のことに留意する。
 - ◎ 魅力的で価値のある学習課題の設定
 - ・総合的な学習の時間でもエネルギー問題をテーマとする調べ学習を並行して行い、教材文により関心をもって読み進められるようにするとともに、学んだことを総合的な学習の時間でも実践的に活用できるようにする。
 - ・多くの人に自分の考えや感想を伝えようという意欲を喚起するために、総合的な学習の時間で行う予定のリーフレット作り(作成後は市役所に置いてもらう)と関連付けながら学習を進める。
 - ◎ よりよい解決方法を見出すための主体的な学びにつながる展開の工夫
 - ・文章の読解では、「内容の読み取り→自分の感想・考え→感想・考えの交流」と毎時間の展開をパターン化することで、児童が見通しをもつと同時に発言しやすくする。
 - ・内容の読み取りの際、自分のリーフレット作りにも生かせるように、内容に加えて資料や具体例などの筆者の説明の工夫にも目を向けられるようにする。
 - ◎ 互いに尊重し合いながら、自分の考えや心情を言語にして伝え合う場の設定
 - ・文章読解後、自分の感想や考えを友だちと交流する活動を適宜取り入れ、筆者の主張に対する自分の考えを明確にもてるようにする。
 - ・児童が自信をもって伝え合う学習に参加できるように、グループや学級全体など、学習形態を工夫する。

3 単元の目標

- (1) エネルギー問題に関心をもって読み、感じたことや考えたことを進んで伝えようとする
ことができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 資料や具体例の示し方に注意しながら、筆者の意見を読み取ることができる。(読む能力)
- (3) 文章中の語句に注目して読み、いろいろな構成があることについて理解することができる。
(言語についての知識・理解・技能)

4 単元の評価規準

【言語活動】 イ エネルギー問題について感じたことや考えたことを伝え合うこと。		
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・エネルギー問題に関心をもって読み、考えたことや分かったことを分かりやすく伝えようとしている。	・資料や具体例の示し方に注意しながら、筆者の意見を読み取っている。(ウ) ・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	・文章の中で語句と語句との関係を理解している。(イ(オ)) ・文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。(イ(キ))

5 指導と評価の計画

次	時間	学習活動	指導上の留意点	指導過程における 〔評価規準〕と 〔評価方法〕
一	1	①初発の感想を交流し、学習の見通しを立てる。	○事前に関連図書を学級に置いておき、エネルギー問題についての関心が高まるようにする。	〔関〕 エネルギー問題に関心をもって読み、進んで学習に取り組もうとしている。 発表の様子とノートの記述内容をもとに、加点的に評価する。
二	2 3 4 5 6 7	②資料や具体例に注意して筆者の意見を読み取り、自分の感想や考えを伝え合う。 <u>(本時6/9)</u>	○中心語句や指示語、接続語などに着目させながら文章の内容を的確に押さえ、要旨を捉えられるようにする。 ○資料や具体例があることによって、意見が強調されたり、説得力が増したりすることに気付くようにし、筆者の「説明の技」として押さえしていく。 ○筆者の主張に対しての自分の感想や考えを交流することで、考えがより明確になるようにする。	〔読ウ〕 段落相互の関係を考えながら、筆者の考えを読み取っている。 ノートの記述内容から評価する。 〔読ウ〕 図やグラフを用いていることの意図や効果を理解し、説明の内容を読み取っている。 発言の様子から加点的に評価する。 〔読オ〕 文章の説明をふまえて、筆者の主張について自分の考えをまとめている。 ノートの記述内容から評価する。
三	8	③これまでの学習を振り返り、分かりやすい説明の仕方を考える。	○本文の読み取りで押さえた「説明の技」を確認し、リーフレットのまとめ方に生かせるようにする。	〔関〕 自分が決めた課題について、分かりやすく表そうとしている。 〔言キ〕 文字を書く目的や用紙全体との関係を理解している。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 総合的な学習の時間を使って、情報収集やリーフレットの作成を行う。 </div>				完成したリーフレットの内容から評価する。
四	9	④完成したリーフレットを紹介し合い、成果を交流する。	○学習を通しての自分の考えの広がりや深まりを交流し合うようにする。	〔読オ〕 友達の書き方のよさや自分の考えの変化に対して感想をまとめている。 感想の記述内容から評価する。

6 本時案

- (1) ねらい 文章構成や筆者の説明の工夫に着目しながら本文を読み取り、感じたことや考えたことを交流することで、自分の考えを広めたり深めたりすることができる。
- (2) 準備物 掲示用資料
- (3) 展開

過程	学習活動・内容 (○予想される子どもの反応)	教師の働きかけ・評価
つ か む ／	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。	T 前の時間までに学習したことはどんなことでしたか。 ・「再生可能エネルギー源」の具体例や風力発電の現状・取組について想起させることで、本時の学習内容へとつなげる。
考 え る ／	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">意見を交流しよう ～風力発電の課題と解決策～</div> <p>2 本文を読んで、風力発電の課題と解決策について筆者の主張を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風力発電の課題 ・風力発電の解決策 ・筆者の考え ・筆者の「説明の技」 <p>○②①～②②段落には風力発電の課題が書いてあるな。</p> <p>○②③段落は解決策が述べられているよ。</p> <p>○「現状→課題→解決策」という流れは、本論1と同じで分かりやすい説明方法だね。</p> <p>○「複数の自然エネルギーを組み合わせると、安定した電力を作り出すことができる」と筆者は言っているよ。</p>	T 風力発電の課題と解決策について、筆者の考えを読み取りましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・②①～②③段落を読み、風力発電の課題と解決策が書かれていることを押さえることで、本論1と同じ流れ（現状→課題→解決策）になっていることと、それが筆者の「説明の技」であることに気付かせる。 ・複数の自然エネルギーを組み合わせることでそれぞれの弱点を補うという、筆者の知恵に気付かせる。 ・「使い切りエネルギー源」から「再生可能エネルギー源」へ切り換える必要性について読み取ることで、筆者の主張に迫れるようにする。 <p>※文章構成や筆者の説明の工夫に着目しながら、本文を読み取っている。【発言】</p>
深 め る ／	3 筆者の主張に対する自分の感想や考えをもち、交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えの理由や根拠 ・筆者の考えのよさ ・具体例の示し方 <p>○自分は筆者の考えに賛成だ。</p> <p>○筆者は風力発電と太陽光発電の組み合わせについて述べているけど、ほかの自然エネルギーも工夫して使えないかな。</p> <p>○自分が調べた資料では、自然エネルギーのシステムを整えるには、費用がかかることが問題だと書いてあったよ。</p>	T 文章を読んで感じたことや考えたことを、友だちと伝え合しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間に各自が調べた資料を活用できるようにしておき、それと関連付けながら自分の考えをもてるようにする。 ☆自分の感想や考えを発言しやすくするために、まずは少人数のグループで交流させる。 ※自分の感想や考えを友だちに進んで伝えようとしている。【行動観察】 ☆感想や考えを交流して新たに分かったことや、自分の考えの変わったことなどをノートに書かせることで、自分の感想や考えをより明確にさせる。 ※筆者の主張に対する自分の感想や考えを明確にもつことができる。【ノート】 ☆ノートに書いたことを全体にも伝えて広めることで、互いの考えをさらに深められるようにする。
振 り 返 る	4 学習をふり振り返り、次時の学習に見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張 ・発表し合うことの意義 <p>○自分では気付かなかったことにも、友だちと考えを交流することで気付けたな。</p>	T 今日の学習の振り返りを書きましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張やそれに対する自分の感想・考えを友だちと交流することで、どのように変わったかを振り返らせ、発表し合うことの意義を実感できるようにする。 ※交流を通して、筆者の主張に対する自分の考えを深めることができる。【ノート】

実践事例1 第1学年 のりもののことをしらべよう「いろいろなふね」

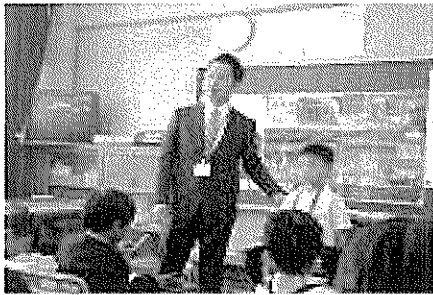
言語活動 好きな乗り物について調べ、カードに書いて伝える

1年 授業のしかけ ここが見どころ

学習意欲 課題設定・教材提示の工夫
 限定された図書資料の提示

学び方の習得 「読むこと」の力を育てる学習活動への取組
 ・基礎的な説明文の読み取り方の習得の場の設定
 ・目的を意図した読書活動の場の設定

思考の深まり 伝え合いの場の設定
 「おたずねっこ」やグループ活動の導入
 (コミュニケーションの広がり)



【成果】

- ・ 限定された資料を並行して読書することにより、目的に合った読書活動を行うことができた。
- ・ 「〇〇ごっこ」という低学年の実態に合わせた活動を取り入れることで、楽しみながら説明文の読み取り方を身に付けることができた。

【課題】

- ・ 思考を深めるために、簡単なペアやグループの活動を取り入れた。今後も発達段階に応じて話し合いの仕方を指導する必要がある。

実践事例2 第4学年 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう

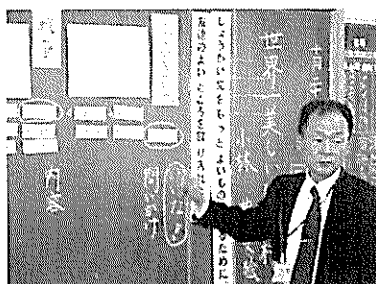
言語活動 家族やふるさとを思う心を描いた本を友だちに紹介する

4年 授業のしかけ ここが見どころ

学習意欲 伝え合う手段の提示と場の設定
 比較・類型化 ⇒ 思いの多様性の発見

学び方の習得 違いや共通点の明確化
 効果的な方法(視点・書き方・感じ方)の発見

思考の深まり 効果的な方法を自分の紹介文に活かす場の設定
 効果的な方法の選択 ⇒ 新しい「伝え方」の発見



【成果】

- ・ 友だちの紹介文のよさを見付けるという視点によって読みの意欲を高めることができた。
- ・ 紹介文の書き方や読み合う場合のポイントが明確で抵抗なく取り組むことができた。
- ・ 黒板上での類型化や名前カードの活用により友だちの考えと比較しながら表現できた。

【課題】

- ・ 内容を深め、表現の工夫や、読み取り・感じ方の違いに気付くために同じテーマで話し合わせてもよかったのではないかな。

実践事例3

第5学年 活動したことを伝える文章を書こう「伝えよう委員会活動」

言語活動 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと

5年 授業のしかけ ここが見どころ

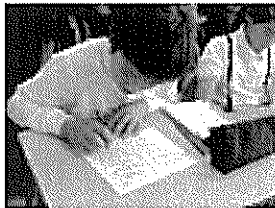
学習意欲	比較による推敲の視点の明確化 推敲前と推敲後を比較 ⇒ 推敲の視点共有
学び方の習得	二段階推敲の場の設定 一人推敲 ⇒ グループ推敲へ(学びの広がり)
思考の深まり	ふり返りの場の設定 習得したことの自覚と活用への意欲づけ

【成果】

- ・比較するための教材やワークシートなどを用意することで、視点を明確にし、子どもたちの「構成する力」を育てることができた。
- ・授業の視点に沿った振り返りカードを作成することで、思考を深める手だてとなった。

【課題】

- ・表現の効果を考えて書くことが十分ではないため、「読むこと」と合わせて指導する。



一人での推敲

グループでの推敲

実践事例4

第6学年 『持続可能な社会』 への取り組みについて考えよう

「未来に生かす自然のエネルギー」

言語活動 エネルギー問題について感じたことや考えたことを伝え合うこと

6年 授業のしかけ ここが見どころ

学習意欲	学習内容と実生活のつながりを考えた課題の設定 総合的な学習の時間との関連
学び方の習得	児童主体の言語活動を活発にするための展開の工夫 文章から読み取ったことを自分の知識や経験、考えとの関連づけ
思考の深まり	発表し合い交流する場の設定 一人一人の感じ方・考え方の違いとそれを認め合う雰囲気作り

【成果】

- ・1単位時間の授業の展開をパターン化することで児童は見通しをもって学習に臨むことができ、主体的な学びにつながった。
- ・少人数での伝え合いの場を設定することで児童は考えを明確にすることができ、互いに考えを深めることができた。

【課題】

- ・活用力を高める指導を充実させるために、6年間を見通した指導計画を作成し、学習指導を工夫していくことが大切である。

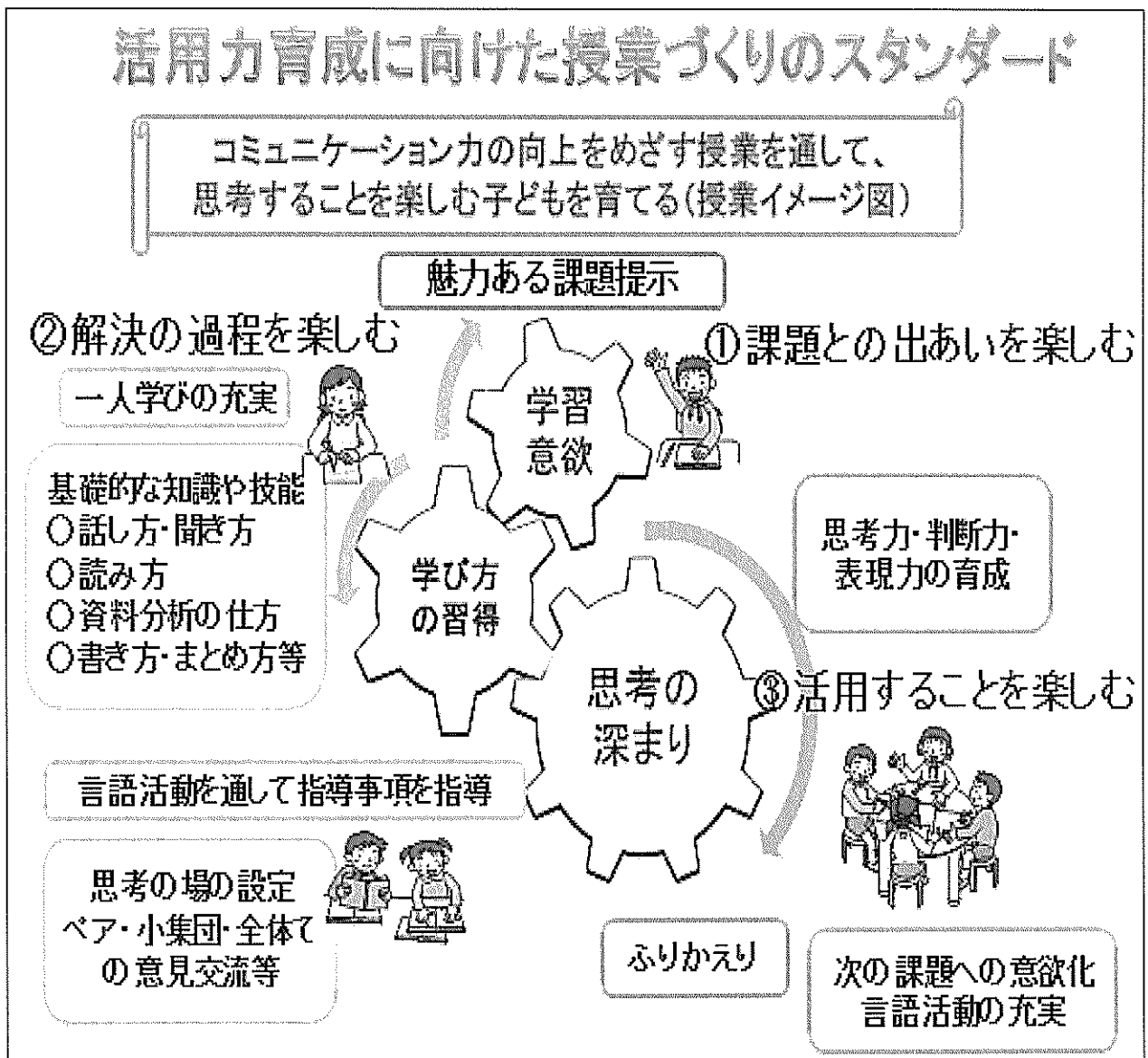


研究の取組による成果と課題

1 校内研修の取組状況

全国学力・学習状況調査等の結果から、本校の課題として考えられる内容には、「自分の立場・意見と根拠とを論理的に結び付けながら話し合うこと」や「複数の資料から必要な情報を取り出し、それらを関係付けながら、条件に沿って自分の考えを書くこと」等があげられた。そこで、「コミュニケーション力の向上をめざす授業を通して、思考することを楽しむ子どもを育てる」という研修主題のもと、国語科における活用力育成に向けて、授業づくりを中心とした研究に取り組むこととした。

また、本校では学力の3要素から児童が「思考を楽しむ姿」を具体的にイメージし、下図〔資料①〕のような「活用力育成に向けた授業づくりのスタンダード」を作成した。実際の授業づくりでは、「単元を貫く言語活動」を選定し、「思考を楽しむための教師による働きかけ（授業のしかけ）」を意図的に仕組んでいくことで「活用する力」の育成を図っていった。



〔資料①〕

2 成果と課題〔□成果 ■課題と改善策〕

- 「単元を貫く言語活動」を選定し、実践にあたることで学習内容が精選され、指導事項の確実な定着のために有効であった。児童に身に付けさせたい力が明確になり、指導計画や評価規準もはっきりとし、指導と評価の一体化という点でも有効であった。また、児童もゴールが明確になった学習活動が展開されることにより、目的意識をもった主体的な思考・判断を伴う学びを実現することができた。

- 振り返りの場を設定することにより、児童が自分にどんな力が付いたのか等、学びを自覚することができた。振り返りを充実させることも活用する力の育成につながると思われる。

- 「思考力・判断力・表現力」はそれぞれの過程において相互が補完的に作用し合い、しかも螺旋的に高まる関係にある。授業の中に様々なコミュニケーションスタイルを取り入れ、表現活動に取り組むことで、個々の思考が深まった。また、互いに考えを共有しながら、さらに高い次元の学びに発展することもあった。日々の授業の中で「コミュニケーション力向上」をめざすことは、児童の「活用力（思考力・判断力・表現力）」育成にも効果的であると思われる。

- 活用力育成に向けて「単元を貫く言語活動」の効果を考え、1年生から6年生までの各段階で重点的にどのような力をつけるべきかを把握した上で、指導を充実させていくための系統表や年間指導計画の作成をしていく必要がある。

- 「活用する力」を育成するために「何について思考させ、何をもって判断させ、どう表現させるのか」といった教師の意図的な働きかけ（授業のしかけ）をさらに充実させ児童の思考力・判断力・表現力の質的な高まりをめざしていくことが重要である。